

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会の活動趣旨

患者の高負担、国民医療費の高騰、病院における包括支払制度の拡大など、時代の変化の中で、価格の安価なジェネリック医薬品やバイオシミラーの役割がますます重要となっています。現在欧米ではジェネリック医薬品の品目ベースでのシェア（特許が切れてジェネリック医薬品のある医薬品に占めるジェネリック医薬品のシェア）は60%～90%にも達しています。しかしながら日本ではまだジェネリック医薬品市場は60%程度にとどまっています。

わが国でジェネリック医薬品やバイオシミラーが伸び悩んでいる理由は、欧米との制度的な違いもありますが、ジェネリック医薬品やバイオシミラーの情報の少なさからくる品質に対する漠然とした不安、品切れなどの供給不安があげられます。

この時期に大切なことは、まず医師、薬剤師、患者がジェネリック医薬品とバイオシミラーのことを正しく知ること、そして医薬品メーカーもその品質や安全性の情報提供体制、供給体制について万全の体制でのぞむことでしょう。

一方、いつの時代にも画期的な新薬は必要とされています。とくに最近では抗体医薬などのバイオ医薬品の躍進がめざましいです。しかしこうした新薬も年月を経て、特許が切れれば、その有効成分は開発メーカーばかりのものではなく、社会全体の共有の財産となります。こうして生まれてくるジェネリック医薬品やバイオシミラーの正しい理解とその普及をはかるために、弊会は、現場の医師、薬剤師を中心として設立されました。弊会は、当初2003年9月より日本ジェネリック研究会としてスタートし、2007年より日本ジェネリック医薬品学会に移行しました。そして2017年4月より学会名を日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会へ改めました。

現在、弊会は年1回の学術大会、学会誌「ジェネリック研究」の発刊、Web上での「ジェネリック医薬品情報検索システム（GIS）」、「かんじゃさんのくすり箱」などの情報提供活動、ジェネリック医薬品を積極的に推奨する保険薬局に配布する「ジェネリック推奨マーク」の発行、各種セミナー活動、バイオシミラー分科会、品質評価委員会、制度委員会、流通委員会、国際委員会などの各種委員会活動を通じて、ジェネリック医薬品とバイオシミラーの理解と普及に努めています。

こうした学会の趣旨をご理解の上、ぜひ日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会にご参加の程お願い申し上げます。

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会代表理事

武 藤 正 樹